



# 次期作のための土づくり

大豆の生育を良好にするには土づくりが大切です。大豆作付け前に必ず実施しましょう。

## 土壌診断で土の状態を確認しよう！

土壌診断は、いわば土の健康診断です。診断の結果、不足しているものを補えば生育は良好になります。

水田土壌の改善目標値（農林水産省 地力増進指針より）			
作土の厚さ	pH	有効態リン酸含有量 (目標とする下限値)	可給態窒素含有量 (地力窒素の目安)
15cm以上	6.0～6.5	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg/乾土100g	8～20mg/乾土100g

※土壌診断は、JAの窓口を通じ、JA全農おおいた土壌診断センターで行っています。

## 作付けまでに対策を取ろう！

### ①根が深く張れる土壌をつくろう！

硬い耕盤を壊すことで排水が良くなります。また、根が下へ伸ばせるようになり、生育後半の干ばつにも強くなります。作付け前にサブソイラやチゼルプラウなどで耕盤を壊しましょう。

### ②pHは大事です！

目標とするpHは、6.0～6.5です。特にpH5.5以下の酸性土壌では根粒着生が少なくなり、大豆の生育を不良にします。土壌診断でpHを確認し、目標値に近づけましょう。

pH6.2を目標とした炭カルの施用目安 (kg/10a)

土壌の種類	土壌のpH			
	<4.0	<4.5	<5.0	<5.5
火山灰土壌	500※	350※	200	100
粘質～壤質土壌	350※	250	150	70
砂質土壌	200	150	100	50

注) 施用上限は反当300kgとし、超える場合は何年かに分け施用しましょう。なお、炭カル以外の場合は次の係数を掛け施用してください。

※ミネラルG、ケイカル→1.18、苦土石灰→0.96

### ③リン酸を施用しましょう！

大豆は、リン酸の要求量が多い作物です。リン酸は茎葉の増加や子実肥大に役立ちます。なお、充分あると根粒菌の発育も良くなるので、反当10kg程度のリン酸を元肥で施用しましょう。

### ④地力を高めよう！

大豆は大量の窒素を必要とするので、連作すると土壌が痩せていきます。可給態窒素含量が少ない場合は、堆肥を1～2t/10a施用しましょう。また、わらなど有機物をすき込むだけでも土づくりになります。